

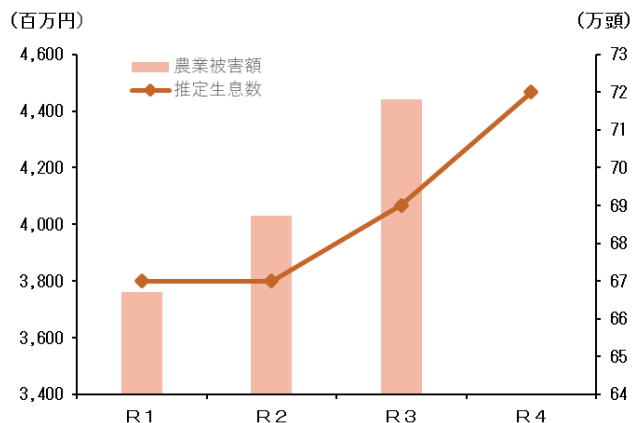
5 エゾシカの食害対策

(1) 生息数の変化

エゾシカの数が増えた、食害が多くなったと感じていませんか。

実際にエゾシカの推定生息個体数は増加傾向にあり、それに伴って農業被害額も増加しています（図VI-10）。

エゾシカには生息しやすいポイントがあり、当てはまる草地ではより被害に遭いやすいと考えられます（表VI-4、写真VI-5）。



図VI-10 エゾシカ推定生息数と農業被害額の推移
(北海道環境生活部自然環境局 R5年8月公表)

表VI-4 エゾシカの出現しやすい草地

条件
・ 森林からの距離が200m以内の草地
・ 河川からの距離が400m以内の草地
・ 鳥獣保護区に近い草地
・ 牧草被害が多く低収量となっている草地

(参考：道総研 エネルギー・環境・地質研究所ほか
囲いわなによるエゾシカ捕獲の手引き) 改編



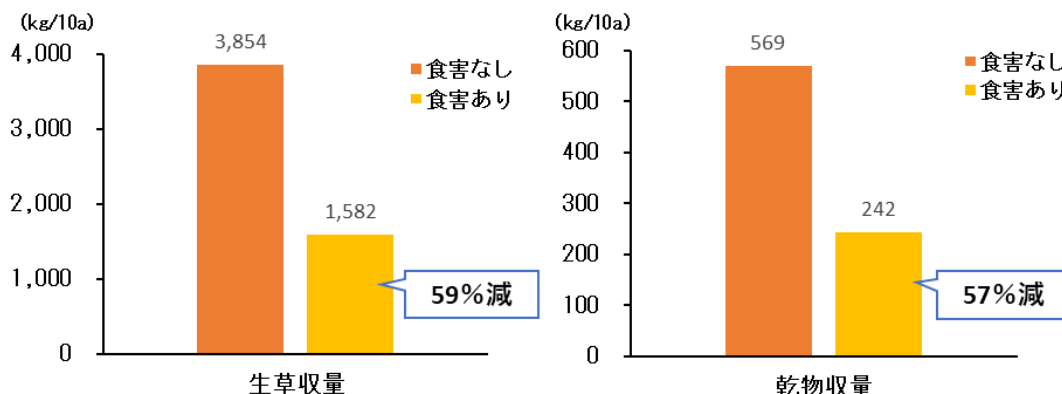
写真VI-5 草地に集まったエゾシカ (根室市)

(2) 食害の影響

食害による酪農業の影響は草地で大きくみられ、チモシーの分けつした新芽を選択的に食べられてしまうことによる収量の減少が見られます。エゾシカ出没の多い採草地の収量は、食害のある箇所と少ない箇所で大きな差が確認されました（図VI-11）。

また、強食害箇所では、「チモシーの葉色が薄い」、「葉の割合が少ない」などチモシー自体の草勢の低下やそれに伴って裸地化、メドウフォックステールやハルガヤなどの雑草の侵入で植生が悪化しています。

エゾシカによる食害を完全に防ぐことは困難と言えます。そのため被害を抑えるための取り組みを紹介します。



図VI-11 R5年度1番草収量の比較 (左：生草重/右：乾物重)

(根室農業改良普及センター調べ)

(3) 食害対策の事例

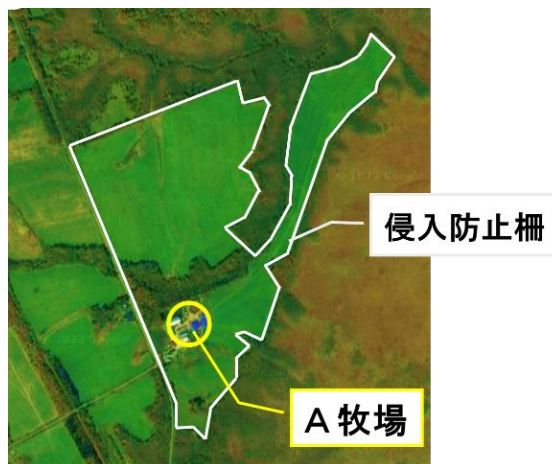
K牧場（別海町）では、侵入防止柵（写真VI-6）を66haの草地（総延長：約6,300m）に“一筆書き状”に設置しました（図VI-12）。

これにより牧草収量では、スタックサイロ1本分の増収効果を実感しており、サイレージの原物重量に換算すると800~1,000トン程度の増収と考えられます。

ただし、柵内にエゾシカが侵入した場合は、猟友会に駆除を依頼しています。



写真VI-6 設置した侵入防止柵



図VI-12 侵入防止柵の設置状況

侵入防止柵の設置費用は、高額になるため費用対効果が気になります。農研機構畜産草地研究所が開発した「牧草被害額に基づく電気柵導入決定支援シート」（導入支援シート）を活用することで、導入効果を試算することができます（図VI-13）。

エゾシカの食害対策は、この導入支援シートの活用と併せて、侵入防止柵の導入を検討してみてもはいかがでしょうか。

牧草被害率に基づく電気柵導入決定支援シート

入力項目		入力目安	その他の情報（入力目安表示用）	
1 草地面積 (ha)	72		地域	関東・中部
2 草地の総外周 (m)	8,110		地帯	高層農業冷地帯
3 牧草生産量 (t/ha/年)	8	※範囲物	電気柵タイプ	フェンシングワイヤ柵
4 牧草被害率 (%)	20		地域の選択には右の区分回を確認ください	
5 牧草購入単価 (円/ke)	46.7	※範囲物	地域	
6 電気柵単価 (円/m)	2,200		北海道 地域	
7 電気柵耐用年	15	入力項目が空欄時に表示されます	↓ 表示を希望する地域を選んでください	

空欄に初値を入力してください。2、5が不明の場合は「入力目安」の値を入力してください。
※は最高を「計算シート」に入力して算出してください。
電気柵以外の資材を利用する場合は、当該資材の単価・耐用年をこの入力項目は任意です。

図2.2-1 北海道の地帯区分と代表的地点の気象条件

診断結果

推定被害額 (円/年)	5,379,840
電気柵導入費 (円)	17,842,000
初期経費回収可能年数	3.3 年
判定	導入すべき

B/C (推定被害額×電気柵耐用年) / 電気柵導入費

4.5

図VI-13 導入支援シート（農研機構HPよりダウンロード可能）

